

国際こだいらNo.64 震災特集別刷号

ジェーン先生の石巻ボランティア活動報告

6月上旬のボランティア活動についてジェーン先生に、6/23の公開インタビューおよび7/3の国際交流フェスティバルのボランティア報告会でお話いただきました。その内容をQ&A方式でお伝えします。

■ 石巻市に行かれたきっかけは何ですか？

地震の後、何かしなくては、と思いました。石巻でボランティア活動をしているイギリス人を知り、彼の活動に仲間と参加することにしました。

■ 現地ではどのような活動を？

石巻では、自宅や小さな避難所にいる人々には支援物資が届きません。そこで現地で今必要なものを聞いて、直接届けるという活動をしました。

KIFAからの寄付金（3万967円）とオーストラリアの友人からの寄付金が、合計で10万8千801円になりました。このお金で、東京ではタオルケットやTシャツ、下着、蚊取り線香などを、石巻では野菜や果物などを買って、配って回りました。受け取った人々はとてもよろ

こんでくれました。

また日本人ボランティアと一緒に、個人宅の泥を除く作業もしました。

■ 現地の状況は？

海岸沿いの被災地は、まだがれきがたくさん残っていたり、腐った魚が散乱していたりと大変な状態でした。臭いがきつく、ハエが大発生していました。

■ ボランティアをした感想は？

石巻を離れる時、何もかも津波で流された場所を見て涙が出ました。現地はまだ大変な状態です。私は7月にまた現地へ行きます。どうかみなさんも被災地のために何かしてください。

KIFAの取り組み

KIFAでは先生の活動を支援するため募金活動を行い、6月の活動の際には3万967円を先生にお渡しすることが出来ました。また7月の活動予定を聞いた方々から「自分たちも何かできないか」との声があがりましたので、国際交流フェスティバルでは募金活動に加え、手書きのメッセージカードを集める活動をいたしました。この時の募金には2万4850円が集まり、またメッセージカードは、日本語のみならず、英語、中国語や韓国語のカードが集まるなど、多くの方に書いていただきました。

二回目の寄付金とカードは7月7日、先生にお渡ししました。ご協力いただきましたみなさまには、深くお礼申し上げます。

国際交流フェスティバルで紹介された現地とボランティアの様子



現地の様子。



6月で建物の屋根に魚が残っていたそう。



たくさんの野菜や果物を購入して、配って回ったそうです。



たくさんのメッセージカードが集まりました。

(写真左)
国際交流フェスティバルでは、現地へ贈るメッセージカードを多くの方に書いていただきました。

(写真右)
第二回募金とメッセージカードを先生にお渡ししました。



さて、『海外で今回の震災や一連の原発事故のことがどのように報道されているか?』ということはテレビでも特集が生まれ、みなさんもよく目にしたのではないのでしょうか。より一層の節電を求められる今年の夏、では海外では今の日本のように国・政府を挙げての節電・エコな取り組みってあるのかしら?とふと思いました。こういった活動は震災後、テレビでもあまり取り上げていないように思います。せっかくの機会だから会場にいる人たちに母国の取り組みについて聞いてみよう!ということで、雑談がてらインタビューしてみました。

(記載国は順不同。紙面の都合上、国名の正式名称は記載しておりませんのでご了承ください)

台湾

日本の取り組みとよく似ているしゴミ分別も細かいですよ。電力についても冷房の温度は28℃を推奨していて、節電をよびかけるCMもあります。だから今の日本のエコ活動に抵抗はないですね。

ベトナム

節電やゴミの分別を深く考えたことはありませんでした。

CM?目にしたことは無いですね。来日当初、日本の街はとても明るいと思いました!

以前、母国では停電が多かったです。最近は減ってきましたが、停電しても『かまど』で料理したり、レストランは自家発電機を設置したりと、それぞれ停電に備えています。貯水タンクもあるので水道が止まってもしばらくは困らないです。電気・水道が無くてどうにかなる生活、ですね。

インドネシア

家のなかでゴミの分別はしませんね。全部一緒に出して集積所で分別します。分別の仕事が収入源となっている人もいますから。ただ、その作業をめぐる昨今では社会問題となっているようです。

節電のキャンペーンは国・政府を挙げて取り組みをしています。CMもやっていますが『節電イコール節約でお金が貯まる』という、どちらかというと『お金が貯まる』点を強調しているんですよ。

そもそも国内には今のところ原子力発電所はありません。

石炭などの火力発電が主流で、またそれら天然の資源は重要な輸出産業となっています。

予告なしにいきなり停電になることはありましたが今現在、首都ジャカルタでは殆どなくなりました。

暑い国の人間なので暑いのは大丈夫!冬はどうしたらいいでしょう?

中国

どちらかという都市部は水不足が深刻なので、節水と呼びかけるCMが盛んです。節電のCMは目にしたことがなかったですね。ただ、工場などはたまに停電することがあるようです。昨今は物価も高騰しているし節約を第一に考えて節電している人は多いと思いますよ。

インド

今回の震災のことはよく質問されましたがテレビを見る限りは節電・節水といったエコな取り組みを促すCMは無かったように思います・・・。

スリランカ

スリランカではもともとあまり電化製品がありません。エアコンではなく扇風機を使いますし。国内は水力発電が主流なので雨が降らない季節は発電量が少なくなります。ですから停電にならないようにみんなで自発的に電力を使わないように節電します。

イギリス

イギリスはかなり大雑把ですね。ゴミ分別もそれほど徹底していません。ただ、同じヨーロッパでもドイツは徹底していますよ。公共機関のゴミ箱も4つぐらい並んだりしています。

そもそもイギリスの気候は日本と全く異なるので、冷房の設定温度をシビアに考えたりしませんね。



ボランティア中の方にもインタビュー!!

どうですか?海外では都市部・農村部に違いはあるものの、停電があることを前提とした暮らしをしていたり、自発的に節電に取り組んだり、電力の供給を当たり前のように受けてきた私達が学ぶべき姿勢があるように思います。一方で資源も乏しく、季節・地域によって気候の異なる日本、エコ活動には柔軟に対応することが求められますね。皆さんもKIFAのイベントに遊びに来た際は、こういったお話から外国の人と雑談してお友達になってみるのはいかがでしょうか?